

## 概要

- そののわCSAは、奈良県曽爾村、曽爾村農林業公社、近畿大学農学部が連携して行うCSA（地域支援型農業）で、近畿大学と曽爾村の連携をより一層進めることを目的としています。
- 近畿大学と曽爾村は、2019年8月に包括連携協定を締結し、共同で地域活性化に向けた取り組みを進めています（曽爾村での実習の実施、特産品の共同開発、マルシェの共同実施等）。これらの連携活動の一環として、近畿大学農学部農業経営経済学研究室からの提案をもとに関係者で検討を進め、そののわCSAの取り組みを2023年後期から開始しています。
- 2023年後期は、農学部の学生・教職員の有志・計11人がそののわCSAのメンバーとなり、前払い方式で曽爾村産農産物の共同購入（計4回）を実施（大サイズ（1回あたり2,000円・8～10品目）、小サイズ（1回あたり1,000円・4～5品目）の2種類）。そののわCSAメンバーが受け取る農産物の選定は曽爾村農林業公社にお任せ。そののわCSAのメンバーらが曽爾村を訪問するツアーも実施。



◆CSAとは、Community Supported Agricultureの略称で、一般的に「地域支援型農業」と記されます。CSAは前払いによる農産物の契約を通じて、農業者と消費者が相互に支え合う仕組みのことで、地域農業の振興やコミュニティ形成等の効果をもたらす新たな農業モデルとして注目されています。

◆CSAは農業者と消費者が農業や食についてのリスクを共有し、信頼に基づく対等な関係を築くことによって成立しています。また、農作業等を通じて農業者と消費者が交流したり、消費者が出荷作業等の農場運営に関わったりする場合があります。

◆大学単位でCSAを行うのは日本国内では先駆的な取り組みです。大学（特に農学部）でCSAに取り組むことで、地域農業の振興や学生教育の進展等の様々な効果が期待されます。

### 大学単位で行うCSAのイメージ



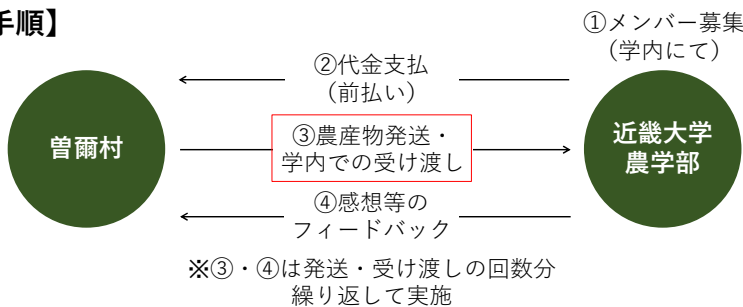
※地方自治体やNPO等が仲介・支援する場合も

生産した農産物を定期的に届ける

農産物のやりとりに加え、交流活動等も行うことで、地域農業の振興や大学を含めたコミュニティの形成、学生教育の進展等が期待される

## 曽爾村産農産物の共同購入

### 【手順】

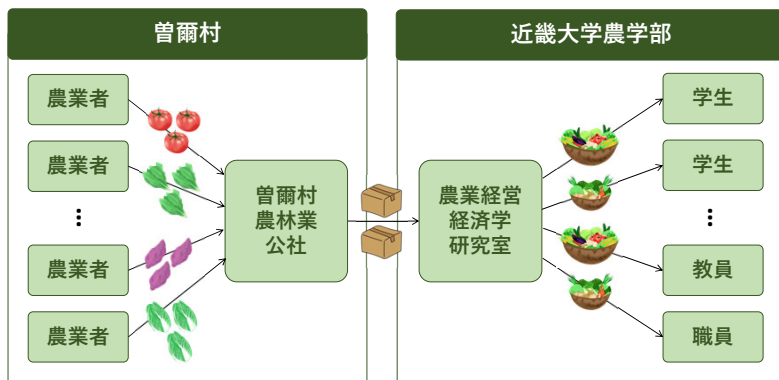


### 【農産物の選定方針】

- ・ 曽爾村の旬を感じることができる農産物
- ・ 曽爾村の特産品となっている農産物
- ・ 有機栽培や農薬不使用栽培等のこだわりの栽培方法で栽培された農産物
- ・ 大和の伝統野菜
- ・ 珍しい農産物

上記のような農産物等を対象に、農産物の生育状況や農産物の日持ちの程度等にも配慮しながら、曽爾村農林業公社にて農産物を選定

### 「農産物発送・学内での受け渡し」の具体的な流れ



### 【農産物の例（2023年後期）】

- ・ 有機春菊
  - ・ ミックスリーフ
  - ・ 人参
  - ・ 白菜
  - ・ 白ネギ
  - ・ サツマイモ
  - ・ セロリ
  - ・ カラーピーマン
  - ・ 椎茸
  - ・ なめこ
  - ・ 白茄子
  - ・ 新しょうが
  - ・ ゆるぎかぶ
  - ・ 柚子
  - ・ 有機ほうれん草
  - ・ 有機小松菜
  - ・ ジャガイモ
  - ・ きゅうり
  - ・ 九条ネギ
  - ・ 里芋
  - ・ カリフラワー
  - ・ ジャンボピーマン
  - ・ ぶなしめじ
  - ・ 菊芋
  - ・ 銀杏
  - ・ 紫唐辛子
  - ・ ヤーコン
  - ・ キウイ
- 等